

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

青森県の令和6年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりである。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和6年	令和5年	対前年比	令和6年	令和5年	対前年比	令和6年	令和5年
出生	5,099	5,696	△ 597	4.4	4.8	△ 0.4	1° 43' 22"	1° 32' 17"
死亡	20,511	20,835	△ 324	17.7	17.7	0.0	25' 42"	25' 14"
乳児死亡	11	12	△ 1	2.2	2.1	0.1	798° 32' 44"	730° 00' 00"
新生児死亡	7	4	3	1.4	0.7	0.7	1254° 51' 26"	2190° 00' 00"
自然増減	△ 15,412	△ 15,139	△ 273	△ 13.3	△ 12.9	△ 0.4	…	…
死産	116	141	△ 25	22.2	24.2	△ 2.0	75° 43' 27"	62° 07' 40"
自然死産	48	66	△ 18	9.2	11.3	△ 2.1	183° 00' 00"	132° 43' 38"
人工死産	68	75	△ 7	13.0	12.8	0.2	129° 10' 35"	116° 48' 00"
周産期死亡	17	14	3	3.3	2.5	0.8	516° 42' 21"	625° 42' 51"
妊娠満22週以後の死産	10	11	△ 1	2.0	1.9	0.1	878° 24' 00"	796° 21' 49"
早期新生児死亡	7	3	4	1.4	0.5	0.9	1254° 51' 26"	2920° 00' 00"
婚姻	3,313	3,326	△ 13	2.9	2.8	0.1	2° 39' 05"	2° 38' 02"
離婚	1,752	1,665	87	1.51	1.41	0.10	5° 00' 49"	5° 15' 41"
区分	令和6年	令和5年						
合計特殊出生率	1.14	1.23						

（全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和6年	令和5年	対前年比	令和6年	令和5年	対前年比	令和6年	令和5年
出生	686,173	727,288	△ 41,115	5.7	6.0	△ 0.3	00' 46"	00' 43"
死亡	1,605,378	1,576,016	29,362	13.3	13.0	0.3	00' 20"	00' 20"
乳児死亡	1,266	1,326	△ 60	1.8	1.8	0.0	6° 56' 18"	6° 36' 23"
新生児死亡	637	600	37	0.9	0.8	0.1	13° 47' 23"	14° 36' 00"
自然増減	△ 919,205	△ 848,728	△ 70,477	△ 7.6	△ 7.0	△ 0.6	…	…
死産	15,323	15,534	△ 211	21.8	20.9	0.9	34' 24"	33' 50"
自然死産	6,849	7,152	△ 303	9.8	9.6	0.2	1° 16' 57"	1° 13' 29"
人工死産	8,474	8,382	92	12.1	11.3	0.8	1° 02' 12"	1° 02' 42"
周産期死亡	2,285	2,404	△ 119	3.3	3.3	0.0	3° 50' 39"	3° 38' 38"
妊娠満22週以後の死産	1,800	1,943	△ 143	2.6	2.7	△ 0.1	4° 52' 48"	4° 30' 31"
早期新生児死亡	485	461	24	0.7	0.6	0.1	18° 06' 41"	19° 00' 08"
婚姻	485,092	474,741	10,351	4.0	3.9	0.1	01' 05"	01' 06"
離婚	185,904	183,814	2,090	1.55	1.52	0.03	02' 50"	02' 52"
区分	令和6年	令和5年						
合計特殊出生率	1.15	1.20						

注:1) 青森県の基礎人口は令和6年が1,157,000人、令和5年が1,177,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は令和6年が120,295,592人、令和5年が121,193,394人である。

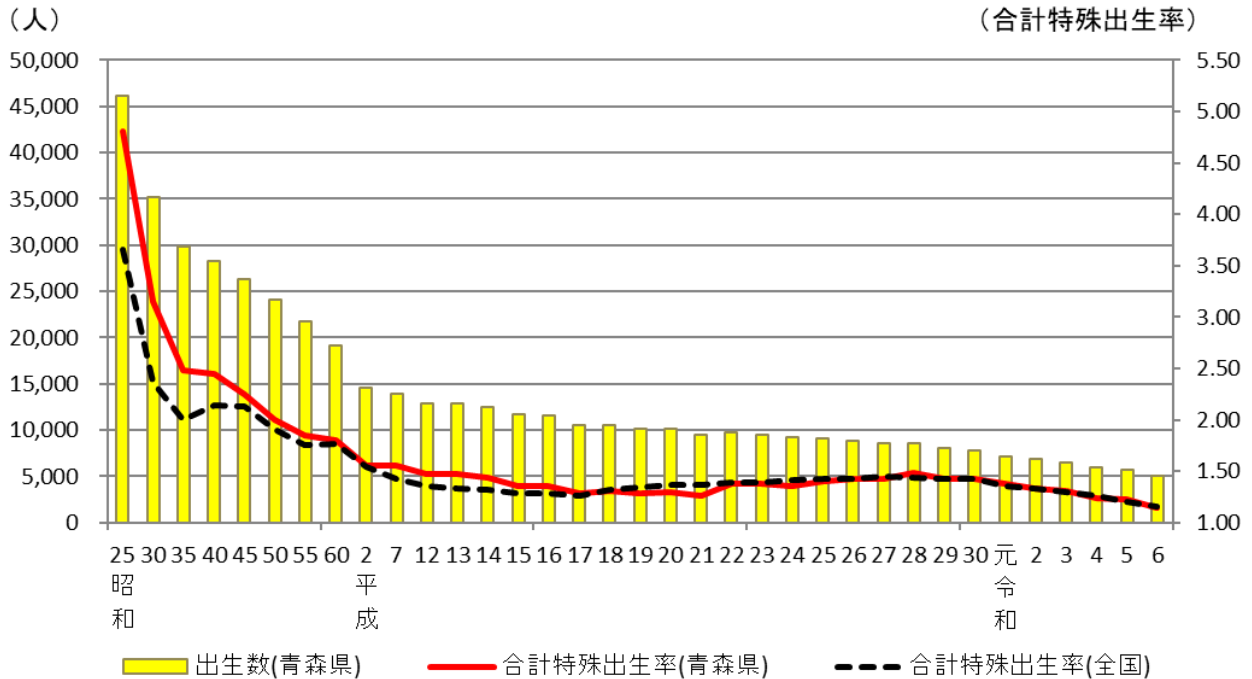
注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出生

(1) 概況及び年次推移

出生数及び合計特殊出生率は、年々減少・低下傾向にあり、令和6年の出生数は5,099人で、前年の5,696人より597人減少し、過去最少となった。また、令和6年の合計特殊出生率は1.14で、前年の1.23を0.09ポイント下回り、全国の1.15を0.01ポイント下回った。(表1、図1)

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



(2) 地域別出生

令和6年の市部の出生数は4,137人、郡部は962人であり、出生率（人口千対）は市部が4.5で郡部の3.8を0.7ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

令和6年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第1子が41.1%、第2子が36.8%、第3子以上が22.0%となっており、第1子と第2子で全体の約8割を占めている。(第2章第8表参照)

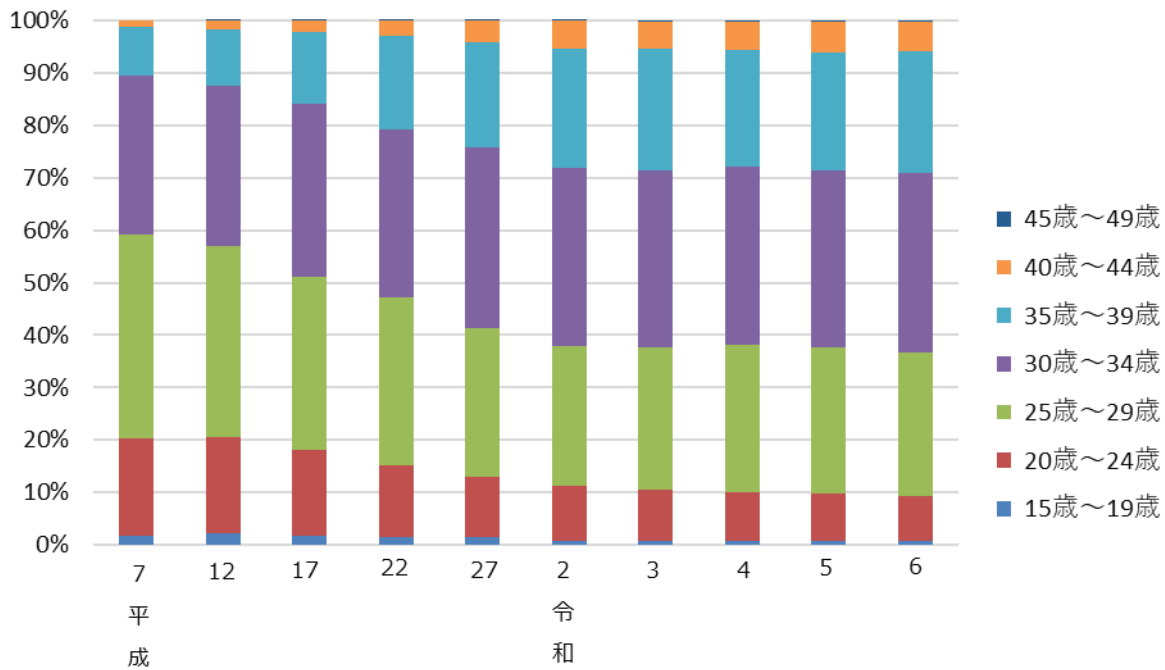
また、令和6年における母の年齢階級（5歳階級）別出生数の構成比をみると、30歳から34歳が34.3%で最も高く、次いで25歳から29歳が27.3%となっている。(表2)

表2 母の年齢階級（5歳階級）別出生数の構成比

(単位：%)

母の年齢	平成7年	12	17	22	27	令和2年	3	4	5	6
15歳～19歳	1.7	2.3	1.8	1.5	1.4	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7
20歳～24歳	18.7	18.3	16.4	13.8	11.6	10.4	9.7	9.3	9.1	8.6
25歳～29歳	38.7	36.3	33.0	31.8	28.3	26.8	27.2	28.1	27.8	27.3
30歳～34歳	30.4	30.5	32.8	32.0	34.5	34.0	33.6	34.0	33.7	34.3
35歳～39歳	9.3	10.9	13.7	17.9	19.9	22.7	23.3	22.3	22.5	23.2
40歳～44歳	1.2	1.6	2.2	2.9	4.2	5.3	5.1	5.5	5.9	5.6
45歳～49歳	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3

図2 母の年齢階級（5歳階級）別出生数の構成比

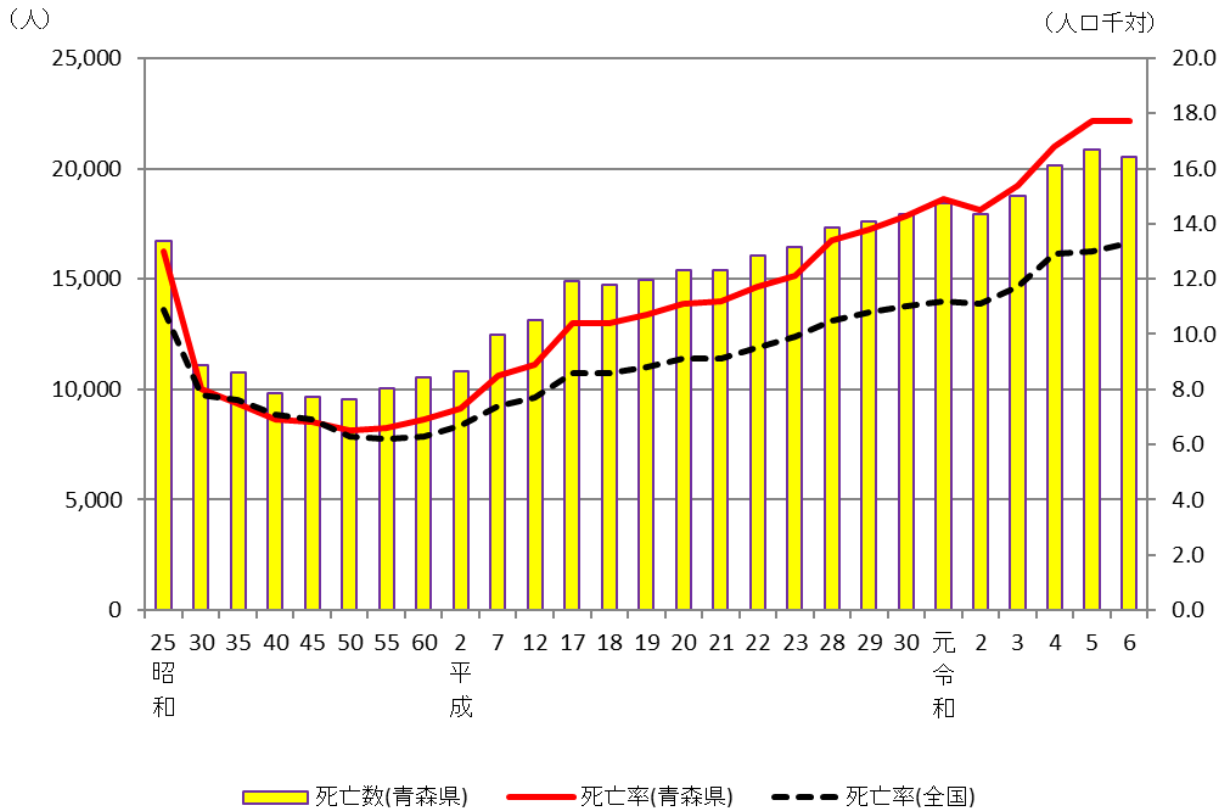


2 死 亡

(1) 概況及び年次推移

死亡数及び死亡率（人口千対）は昭和 60 年代前半以降、年々増加・上昇傾向にあり、令和 5 年は死亡数・死亡率ともに戦後最大となったが、令和 6 年の死亡数は 20,511 人で、前年 20,835 人より 324 人減少、死亡率は 17.7 で、前年の 17.7 と同率であった。また、死亡率は全国の 13.3 を 4.4 ポイント上回った。（表 1、図 3）

図 3 死亡数及び死亡率の年次推移



(2) 地域別死亡

令和 6 年の市部の死亡数は 15,173 人、郡部は 5,338 人であり、死亡率（人口千対）は市部が 16.6 で郡部の 21.2 を 4.6 ポイント下回っている。

詳細は第 2 章第 13 表に記載されているので、参照されたい。

(3) 主要死因

令和6年の死因第1位は悪性新生物で、死亡数5,061人、死亡率（人口10万対）は437.4となった。第2位は心疾患で、死亡数2,834人、死亡率244.9、第3位は老衰で、死亡数2,443人、死亡率211.1、第4位は脳血管疾患で、死亡数1,439人、死亡率124.4となった。（表3）

表3 死因別死亡数、死亡率（人口10万対）

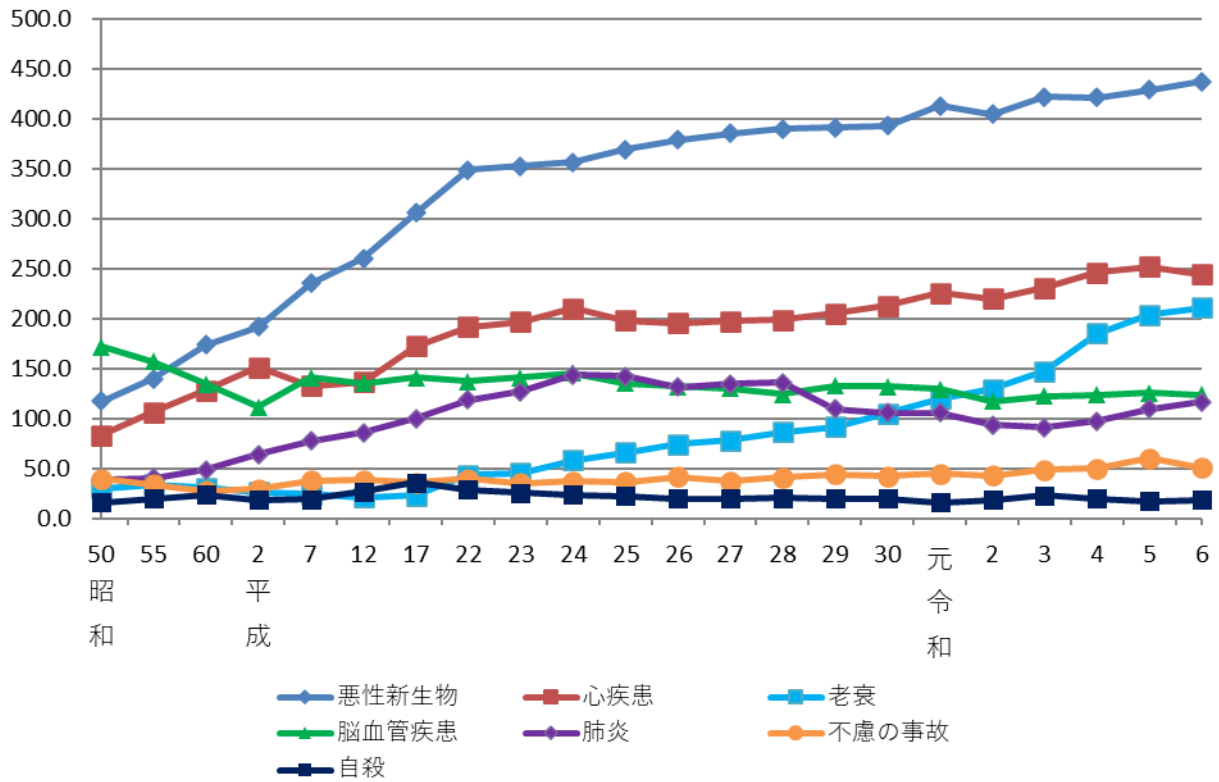
（前年比較・全国比較）

死 因	青 森 県				全 国	
	令 和 6 年		令 和 5 年		令 和 6 年	
	死 亡 数	率	死 亡 数	率	死 亡 数	率
死 亡 総 数	20,511	1,772.8	20,835	1,770.2	1,605,378	1,334.5
悪 性 新 生 物	5,061	437.4	5,055	429.5	384,111	319.3
心 疾 患	2,834	244.9	2,977	252.9	226,388	188.2
老 衰	2,443	211.1	2,405	204.3	206,887	172.0
脳 血 管 疾 患	1,439	124.4	1,488	126.4	102,821	85.5
肺 炎	1,359	117.5	1,295	110.0	80,176	66.6
不 慮 の 事 故	595	51.4	719	61.1	45,743	38.0
誤 嚥 性 肺 炎	562	48.6	505	42.9	63,667	52.9
ア ル ツ ハ イ マ ー 病	515	44.5	512	43.5	25,595	21.3
血 管 性 及 び 詳 細 不 明 の 認 知 症	435	37.6	454	38.6	24,666	20.5
腎 不 全	416	36.0	480	40.8	29,665	24.7

年次推移をみると、概ね平成2年以降「悪性新生物」が死因第1位、「心疾患」が第2位、第3位は「脳血管疾患」又は「肺炎」となっていたが、令和2年以降は「老衰」が第3位となっている。(図4)

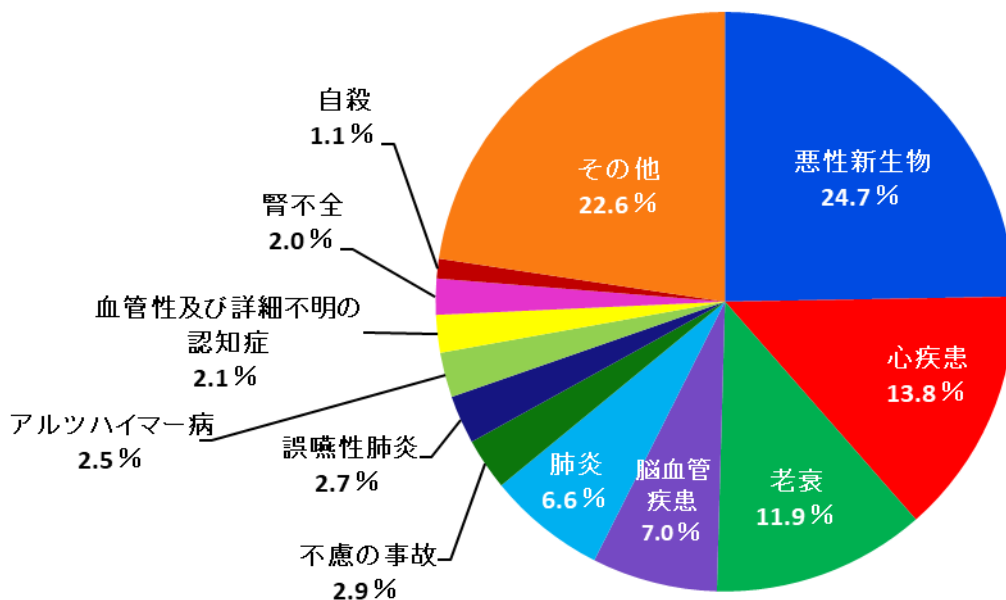
図4 主要死因別死亡率の年次推移

(人口10万対)



令和6年の死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が24.7%、心疾患が13.8%、老衰が11.9%と続き、これら3つの死因で全体の50.4%（前年50.1%）を占めている。(図5)

図5 主な死因の構成比 (%)



令和6年の年代別死因順位をみると、10歳代から30歳代までは、自殺が死因第1位であり、40歳代から80歳代までは、悪性新生物が死因第1位となっている。(表4)

表4 年代別死因順位、実数

年代	総数 (実数)	1位	2位	3位
0～9歳	20	先天奇形、変形及び染色体異常 5	周産期に発生した病態 4	不慮の事故 3
10～19歳	22	自殺 6	先天奇形、変形及び染色体異常 4	悪性新生物 2
20～29歳	43	自殺 19	悪性新生物、不慮の事故 7	0
30～39歳	103	自殺 42	悪性新生物 17	心疾患、不慮の事故 8
40～49歳	241	悪性新生物 65	心疾患 38	自殺 33
50～59歳	633	悪性新生物 228	心疾患 83	脳血管疾患 63
60～69歳	1,627	悪性新生物 700	心疾患 193	脳血管疾患 99
70～79歳	4,197	悪性新生物 1,635	心疾患 473	脳血管疾患 283
80～89歳	7,252	悪性新生物 1,707	心疾患 998	老衰 684
90～99歳	5,988	老衰 1,471	心疾患 984	悪性新生物 691
100歳～	385	老衰 197	心疾患 55	血管性及び詳細不明の認知症 18

3 乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

(1) 乳児死亡

令和6年の乳児死亡数は11人で、前年の12人より1人減少した。乳児死亡率（出生千対）は2.2で、前年の2.1を0.1ポイント上回り、全国の1.8を0.4ポイント上回った。（表1、図6）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表5）

図6 乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

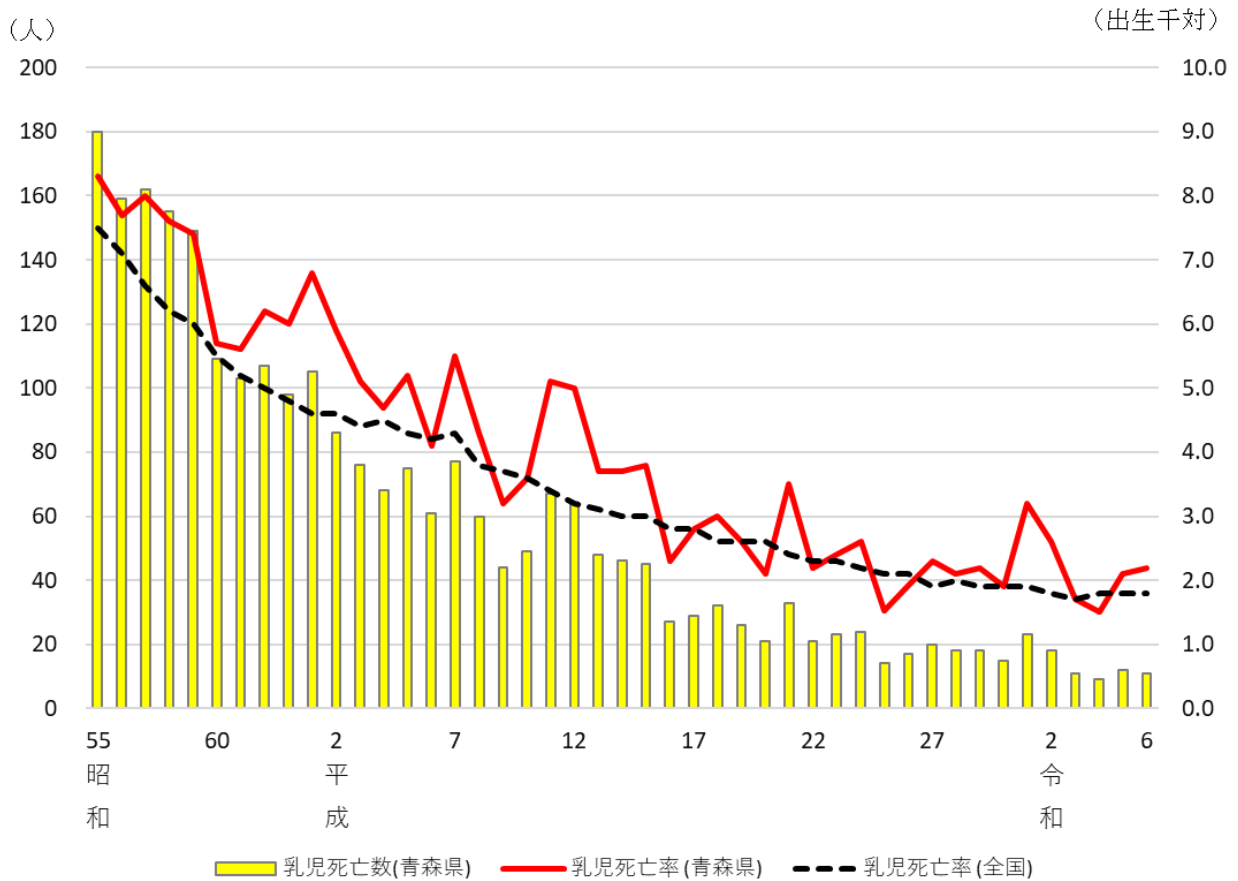


表5 乳児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総計	15	23	18	11	9	12	11
周産期に発生した病態	5	12	10	3	1	1	4
先天奇形、変形及び染色体異常	7	3	5	4	7	2	4
乳幼児突然死症候群	0	2	1	0	0	1	2
その他	3	6	2	4	1	8	1

(2) 新生児死亡

令和6年の新生児死亡数は7人で、前年の4人より3人増加した。新生児死亡率（出生千対）は1.4で、前年の0.7を0.7ポイント上回り、全国の0.9を0.5ポイント上回った。（表1、図7）

図7 新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

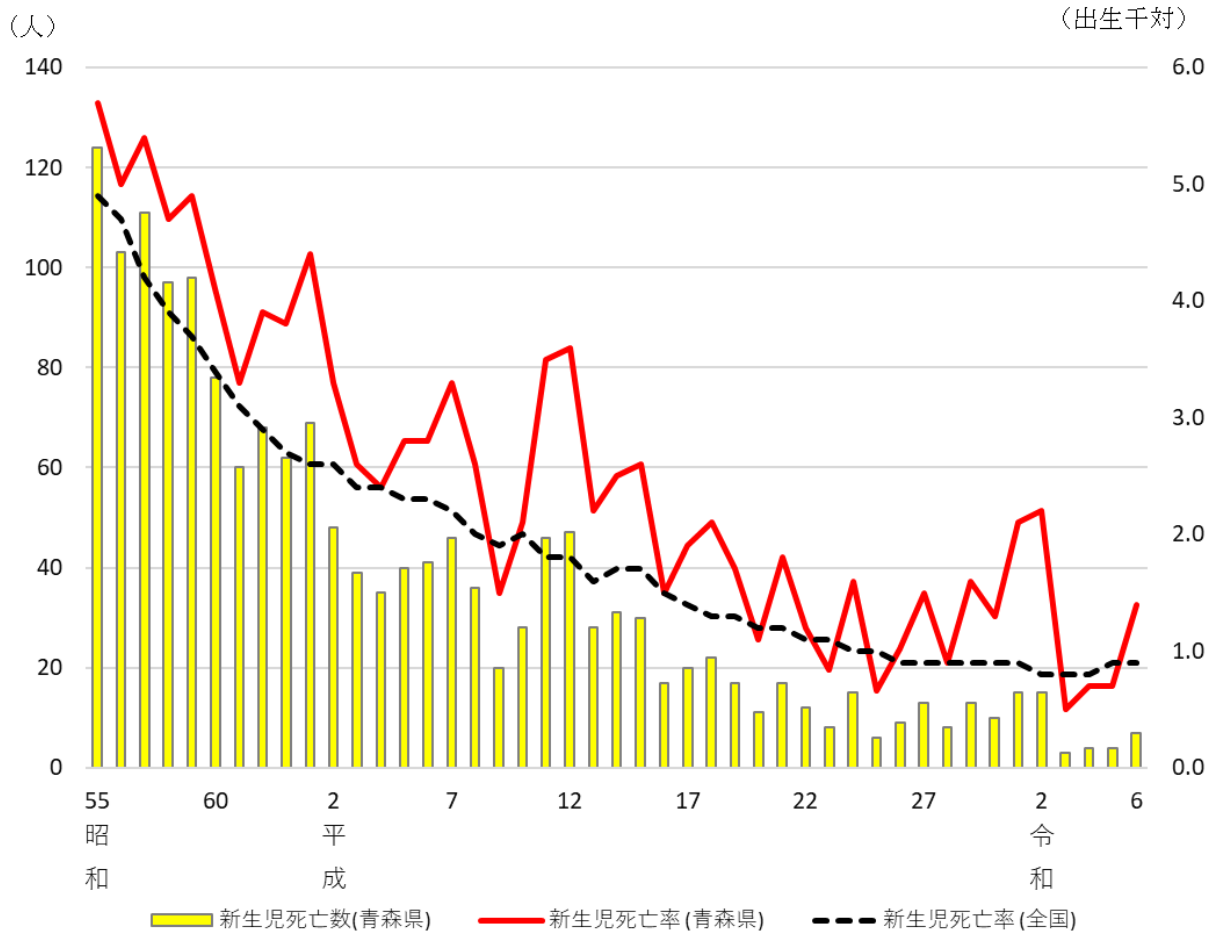


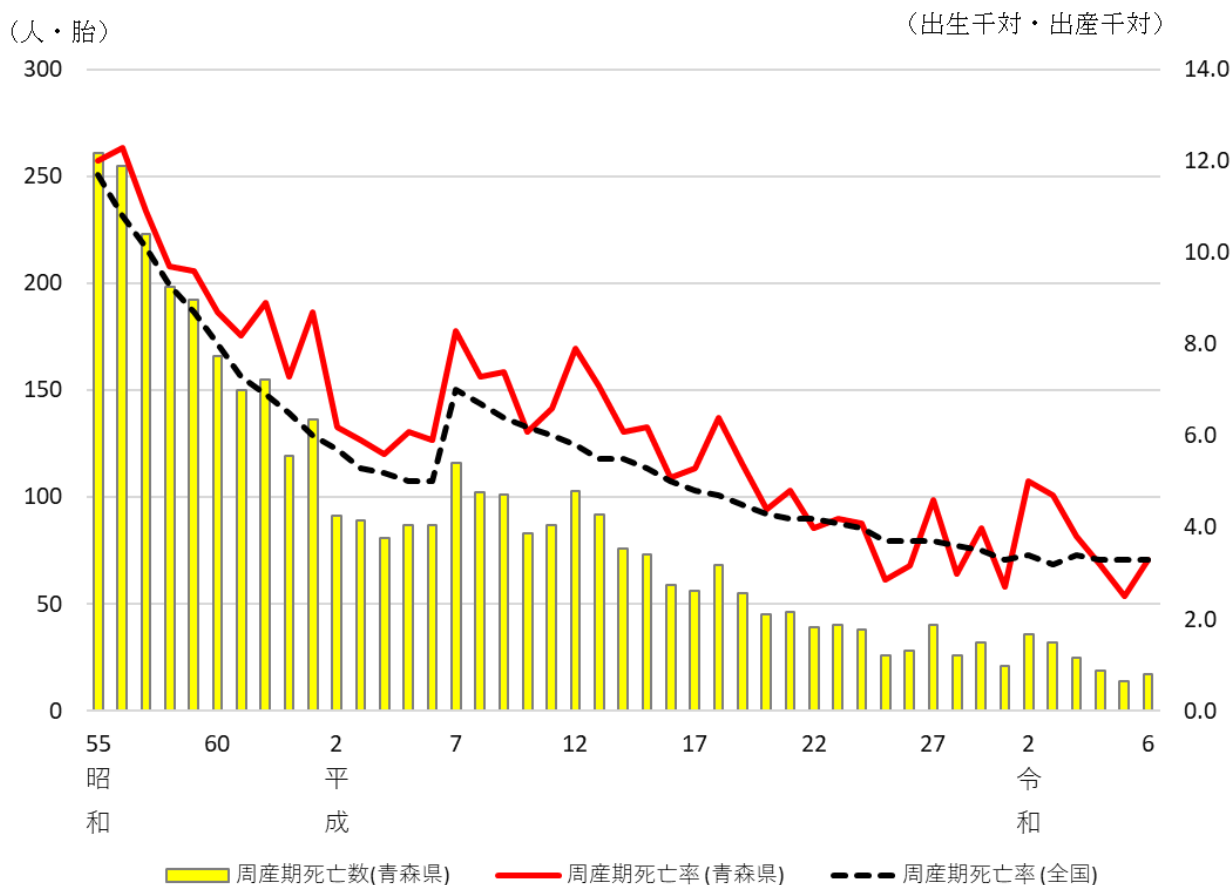
表6 新生児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総計	10	15	15	3	4	4	7
周産期に発生した病態	4	12	10	1	1	1	4
先天奇形、変形及び染色体異常	5	3	5	1	3	1	2
乳幼児突然死症候群	0	0	0	0	0	1	0
その他	1	0	0	1	0	1	1

(3) 周産期死亡

令和6年の周産期死亡数は17件（妊娠満22週以後の死産10胎、早期新生児死亡7人）で、前年の14件（同11胎、同3人）より3件増加（同1胎減、同4人増）した。周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対）は3.3で、前年の2.5を0.8ポイント上回り、全国の3.3ポイントと同率であった。（表1、図8）

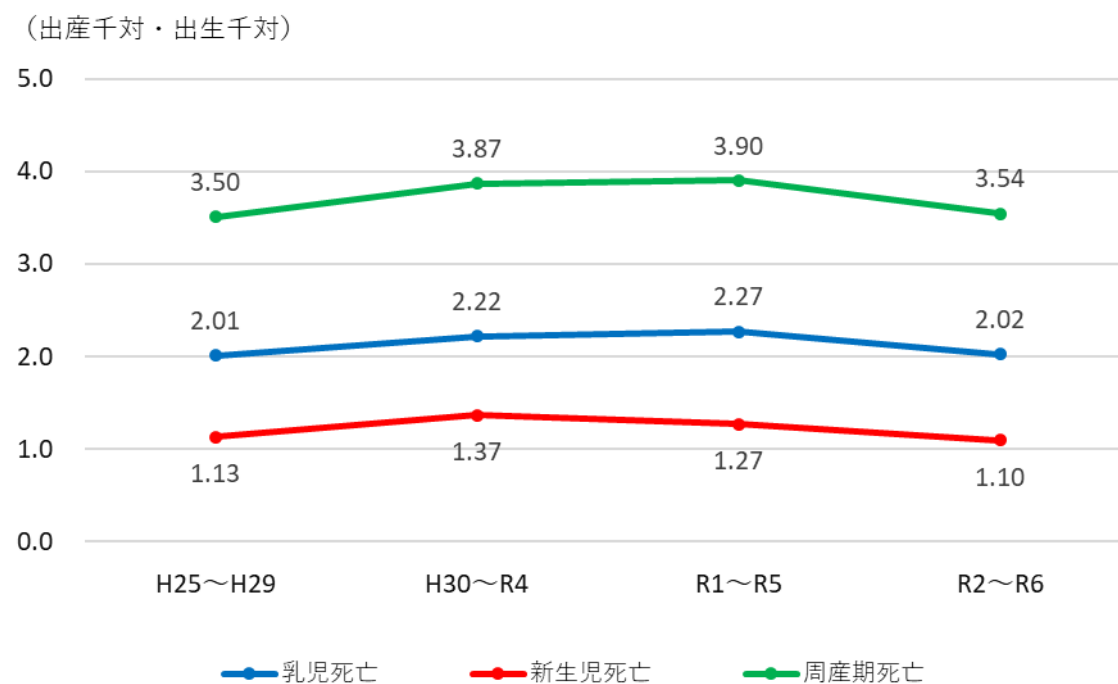
図8 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



(4) 5か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数1件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を5年単位で比較すると、令和2年から令和6年単位では、乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡のいずれについても令和元年から令和5年単位よりも減少した。(図9)

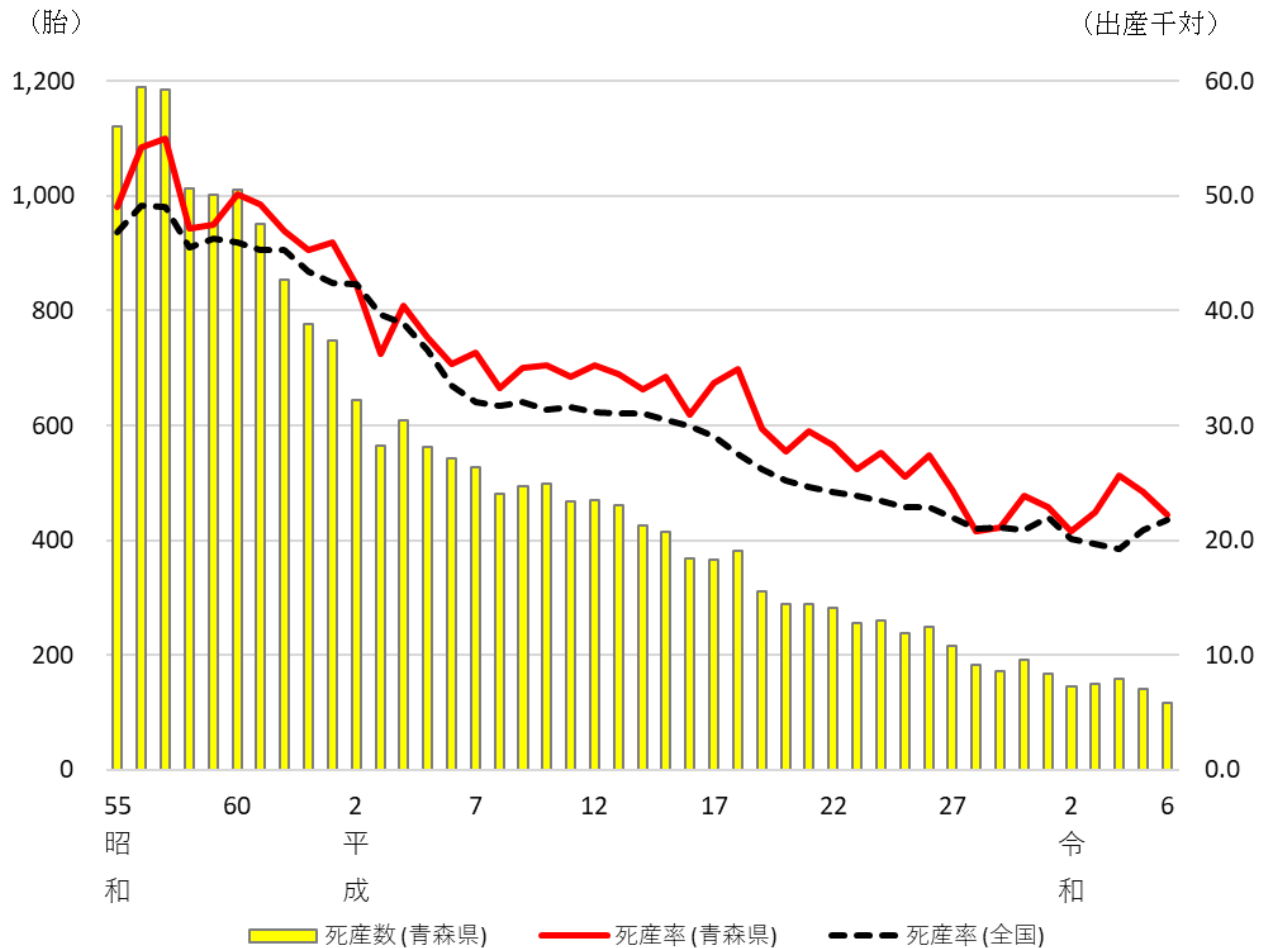
図9 乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の5か年比較(年次推移)



4 死産

死産数及び死産率（出産（出生＋死産）千対）は減少・低下傾向にあるが、令和6年の死産数は116胎（自然死産48胎、人工死産68胎）で、前年の141胎（同66胎、同75胎）より25胎減少（同18胎減、同7胎減）した。死産率は22.2で、前年の24.2を2.0ポイント下回り、全国の21.8を0.4ポイント上回った。（表1、図10）

図10 死産数及び死産率の年次推移

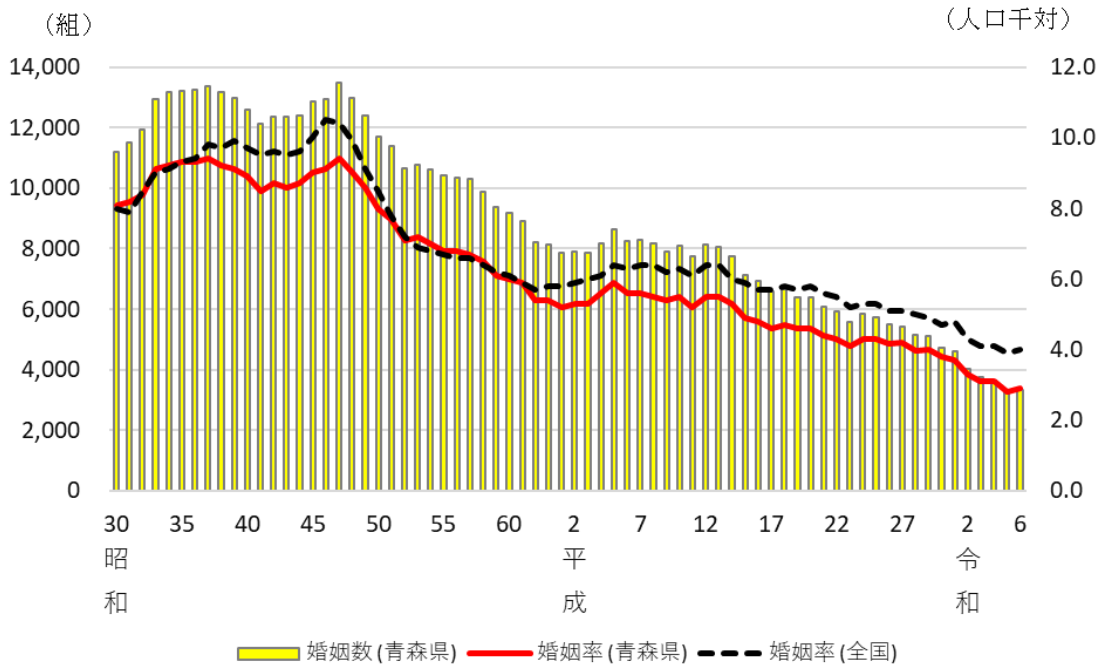


5 婚姻

(1) 概況及び年次推移

婚姻件数及び婚姻率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和6年の婚姻件数は3,313組で、前年の3,326組より13組減少、婚姻率は2.9で、前年の2.8を0.1ポイント上回った。また、婚姻率は全国の4.0を1.1ポイント下回った。（表1、図11）

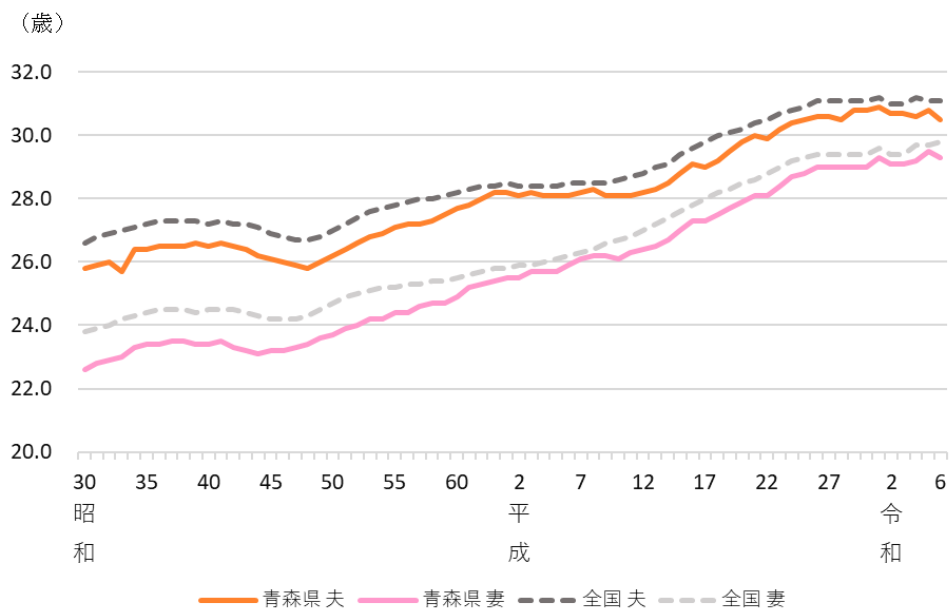
図11 婚姻件数及び婚姻率の年次推移



(2) 平均初婚年齢

平均初婚年齢は男女ともに年々上昇しているが、令和6年の平均初婚年齢は、男性が30.5歳（全国31.1歳）、女性が29.3歳（全国29.8歳）で、男性は前年の30.8歳（全国31.1歳）よりも0.3歳、女性は前年の29.5歳（全国29.7歳）よりも0.2歳下回った。（図12）

図12 平均初婚年齢の年次推移

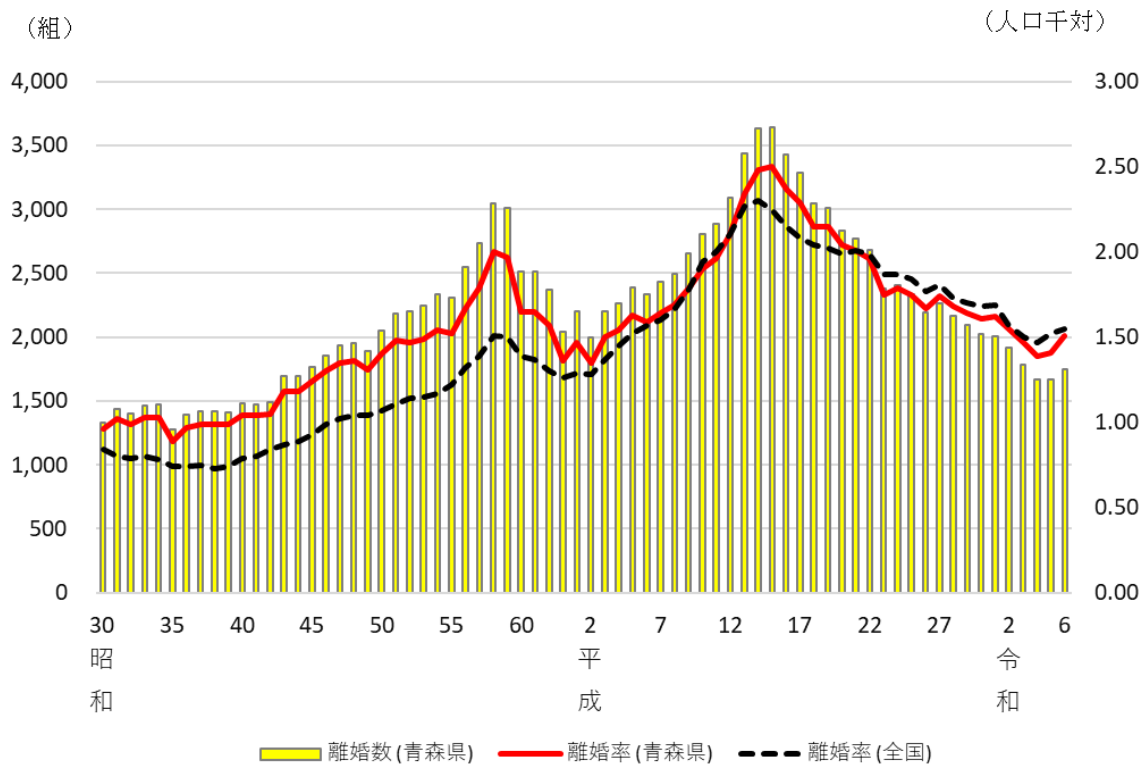


6 離婚

(1) 概況及び年次推移

離婚件数及び離婚率（人口千対）は平成15年にピークに達し、その後は緩やかな減少・低下傾向にあるが、令和6年の離婚件数は1,752組で、前年の1,665組より87組増加した。離婚率は1.51で、前年の1.41を0.1ポイント上回り、全国の1.55を0.04ポイント下回った。（表1、図13）

図13 離婚数及び離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

令和6年の離婚件数1,752組のうち、結婚5年未満で離婚した件数の構成比は27.5%で最も多く、次いで20年以上の24.8%、5～10年の20.4%の順となっている。（表7）

表7 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	27年	28年	29年	30年	R1年	2年	3年	4年	5年	6年
0～5年	29.8	32.1	33.2	31.5	31.3	29.8	29.7	27.6	28.5	27.5
1年未満	5.8	4.9	6.2	5.6	6.1	4.6	4.5	4.9	4.6	4.3
1～2年	7.2	6.4	7.1	6.9	6.9	6.8	7.1	6.3	7.4	6.7
2～3年	7.7	6.8	7.4	6.8	6.9	7.3	6.6	6.7	5.8	6.3
3～4年	5.8	6.0	6.9	6.1	5.4	5.9	4.9	4.7	6.8	5.3
4～5年	5.6	5.0	5.6	6.1	5.9	5.3	6.7	4.9	4.0	4.8
5～10年	21.3	19.1	19.0	20.0	19.4	18.2	21.0	19.2	19.2	20.4
10～15年	14.3	13.5	12.2	13.3	13.7	12.6	11.7	13.9	12.0	12.8
15～20年	11.1	10.6	11.1	11.5	11.4	10.5	9.5	10.4	10.2	11.0
20年以上	20.2	21.3	21.3	20.4	22.1	25.3	24.8	25.3	26.2	24.8
不詳	3.2	3.4	3.2	3.3	2.1	3.6	3.2	3.6	4.0	3.5

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院

令和6年10月1日現在の病院数は88施設で、前年の89施設から1施設減少した。人口10万対では7.6で、前年の7.5を0.1ポイント上回り、全国の6.5を1.1ポイント上回った。

病院数は、昭和58年の124施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(2) 一般診療所

令和6年10月1日現在の一般診療所数は830施設で、前年の850施設から20施設減少した。人口10万対では71.2で、前年の71.8から0.6ポイント減少し、全国の85.0を13.8ポイント下回った。

一般診療所のうち、有床診療所は101施設で、前年の109施設から8施設減少し、診療所全体の約12.2% (全国5.1%) となっている。

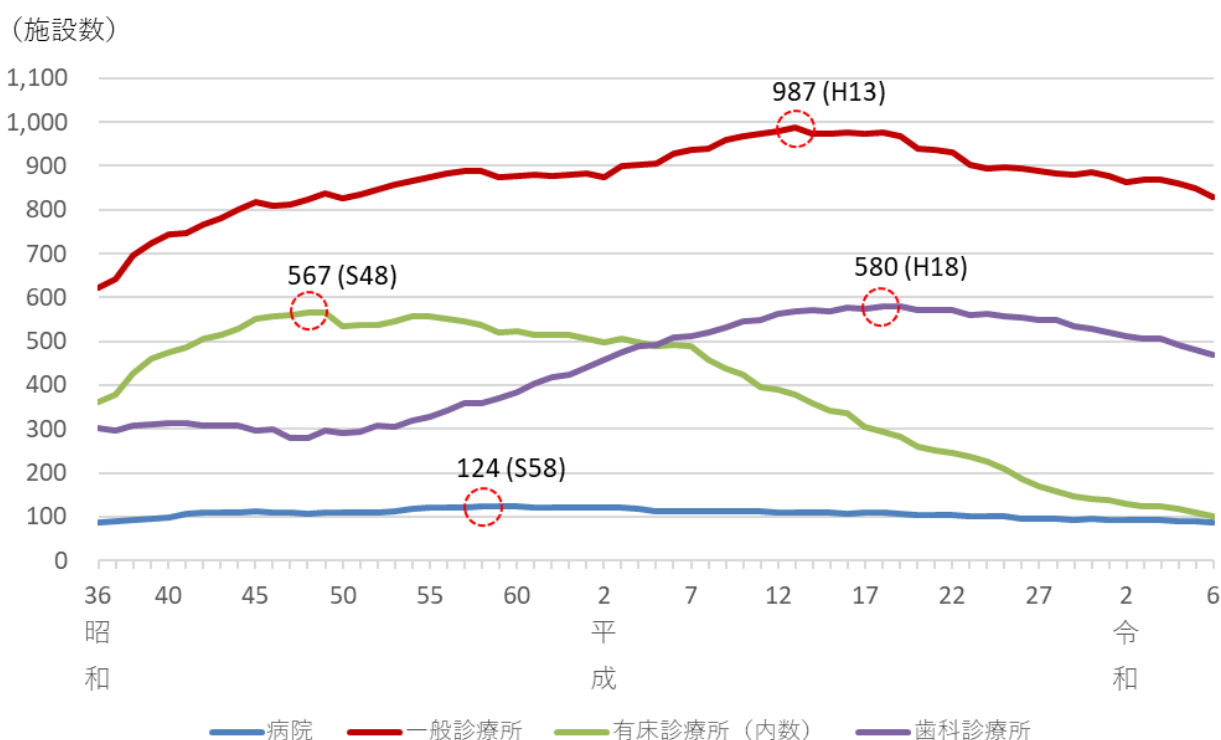
総数は平成13年の987施設、有床診療所は昭和48年の567施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(3) 歯科診療所

令和6年10月1日現在の歯科診療所数は470施設で、前年の481施設から11施設減少した。人口10万対では40.3で、前年の40.6を0.3ポイント下回り、全国の53.6を13.3ポイント下回った。

歯科診療所数は、平成18年の580施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

令和6年12月31日現在の医師数は2,760人であり、前回調査の令和4年(2,795人)から、35人減少している。また、人口10万対では236.9であり、前回(232.1)に比べ、4.8ポイント上回り、全国値である280.9を44.0ポイント下回った。(表1)

表1 医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年	6年
青森県	医師数	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702	2,712	2,773	2,795	2,760
	人口10万対	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0	214.7	224.0	232.1	236.9
全国	医師数	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210	339,623	343,275	347,772
	人口10万対	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8	269.2	274.7	280.9

(2) 歯科医師

令和6年12月31日現在の歯科医師数は692人であり、前回調査の令和4年(715人)から、23人減少している。また、人口10万対では59.4であり、前回と同値であり、全国値である83.7を24.3ポイント下回った。(表2)

表2 歯科医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年	6年
青森県	歯科医師数	757	777	789	781	787	780	762	740	735	715	692
	人口10万対	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9	58.6	59.4	59.4	59.4
全国	歯科医師数	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533	104,908	107,443	105,267	103,652
	人口10万対	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4	83.0	85.2	84.2	83.7

(3) 薬剤師

令和6年12月31日現在の薬剤師数は2,405人であり、前回調査の令和4年(2,373人)から、32人増加している。また、人口10万対では206.4であり、前回(197.1)に比べ、9.3ポイント上回り、全国値である265.8を59.4ポイント下回った。(表3)

表3 薬剤師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年	6年
青森県	薬剤師数	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210	2,306	2,345	2,373	2,405
	人口10万対	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9	182.6	189.4	197.1	206.4
全国	薬剤師数	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323	311,289	321,982	323,690	329,045
	人口10万対	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4	246.2	255.2	259.1	265.8